

## 巻頭言

秋田県立大学 学長 小林淳一

秋田県立大学ウェブジャーナルA（地域貢献部門）は、本学教員の地域貢献活動を広く社会に発信するものである。

地域貢献活動は、それぞれの教員の研究実績の上に成り立っている。これは一朝一夕でできるものではなく、長い年月の経験とレベルの高さが必要である。そのため本学では、小間学長時代、本学を「教育を重視する研究大学」と位置づけ第2期中期計画の6年間、教員の研究力を上げる施策を打ってきた。その結果、教員が研究を続ける上できわめて重要な外部資金である科研費において、獲得件数が6年間で約1.7倍に伸びた。これはとりもなおさず、研究の質、レベルが向上していることを社会が認めたことである。良い研究は、高い研究のハードルをどのように乗り越えるか、研究者としての戦略、強い意志、粘り強さの表れでもあり、教員の質の高さにつながる。そしてまた、学生教育においても学生の思考の深さや幅を広げることに役立ち、特徴ある教育を実現する。

一方、地域貢献活動を実のあるものにするためには、地域のニーズに的確に応えなければならない。一方的な押しつけでは駄目である。そのためには、普段から地域の人たちと交流し、地域が抱える課題を教員自らつかみ取る姿勢が大事である。私は、常日頃から相手の課題に的確に応えるためには、相手が直接に訴えてきた課題に対応するだけでは不十分であると考えている。相手が訴えている背景にあるものを分析し、訴えに応えるだけで良いのか、さらにその先にもっと深く本質的な課題があるかどうかを探る必要がある。そしてそのようなものが見つかったら、相手とよく話し合いそこにターゲットを当て、その解決を目指し、答えを出すことが重要であると考えている。そうすることによって、相手との深い信頼関係が築けるのである。これは企業において長年研究による課題解決を経験し、感じたことである。

レベルの高い研究シーズを持ち、研究で培われた柔軟で幅広い視野を身につけた教員が、相手のニーズを深く分析しもっとも効果的な課題を解決することによって、真の地域貢献ができると信じている。それにより社会から信頼され尊敬される大学になると考えている。本学としてはそこに向かって着実に前進したい。